

瓊水

けい すい

瓊水とは、玉のように美しく清らかな水のことで、田平を潤す、玉のように清らかな心をもつ子を育てていきます。

校長 田崎俊一郎



長崎っ子の心を見つめる教育週間

我が家の倉庫の燕たちは、無事に巣立っていきました。この前まで親が一生懸命餌を運んできていたようですが、あっという間に巣立っていったように感じます。季節

の過ぎるのは早いものです。

さて、北小学校では6月22日(日)からの1週間を、北っ子の心を見つめる教育週間と位置づけ、様々な取組をしていきます。これは、“長崎っ子の心を見つめる教育週間”に関わる取組です。この取組は、各学校において、教育活動を公開する教育週間を位置づけ、“地域の子どもは地域ではぐくむ”という気運を高めていくことをねらいとしています。

本校の取組の中で一番力を入れたいことは“子どもたちの心の状況をとらえること”です。北小学校では、定期的に子どもたちの学校生活や問題について、職員全体で協議する生活連絡会を開き、各学級から気になる事例について報告し、情報の共有化を図っています。その会をスタートして、生活指導的な側面、学習支援的な側面からどんな手立てをとるか判断します。さらに、校内での各専門委員会で支援を検討し、実践する形をとっています。校内だけでは十分でない場合は、外部専門機関と連携を図ることもあります。

このような支援体制を組む際に大切なのは、子どもたちの実態、状況をつかむことです。しかし、心のあり様が行動に表れる子たちばかりではなく、表出できない子も多くいます。また、子どもたち自身も心の不調に気づいていない場合もあります。子どもたちの行動から心の状況を読み取ることはもちろん、アンケートをしたり、気になる子には面談をしたり、いろいろな方法を工夫して子どもたちの心の状況を把握するように努めていきます。

体験から学ぶ

北小では、ICTを活用した教育を進めるのと同時に体験的な学びも重視しています。ヴァーチャルにはその良さがありますが、それだけに偏ってしまうと様々な問題が発生する場合があります。何事もそうですがバランスが大切です。

具体的には北小で計画している体験的な学びは以下のようなものです。



1・2年生は交流活動を位置づけています。学年間、北松分校、幼稚園保育園との交流活動があります。栽培活動も行います。



3年生は地域探検、4年生は福祉として交流会や体験活動を予定しています。

5年生は、JAとの協力で大豆づくり、しょうゆ教室などを予定しています。野外宿泊活動も貴重な体験の場となりました。



6年生は、オランダとの交流活動を予定しています。その他にも修学旅行とリンクした体験活動を予定しています。



体験して終わりではなくしっかりと学びへとつなげていきます。